

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公印省略)

平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成30年度 香川県病害虫発生予察特殊報 第2号

1. 病害虫名： Peacock leaf spot(日本語の病名は無し)
病原菌学名： *Spilocaea oleaginea* (糸状菌の一種)

2. 発生作物名： オリーブ

3. 発生経過

平成30年6月、オリーブ栽培園で、葉の表面に暗緑色から黒色で黄色のハローを伴う円形の病斑が発生した。病斑部からは糸状菌の胞子が認められたため、神戸植物防疫所に同定依頼したところ、Peacock leaf spotと診断された。

国内における本病害の発生は平成29年に静岡県で報告されているほか、海外ではヨーロッパや北米、南米、オーストラリア、ニュージーランド等で発生が確認されている。

4. 病徴及び被害

本病原菌はオリーブだけに感染する。病徴は葉表面上に暗緑色～黒色の円形病斑（一部黄色ハローを伴った病斑）を多数生じる（第1図）。海外の文献では本症状は主に葉に生じ、茎や果実にも病斑が認められることもある。重症な場合は、落葉、新梢枯れ、落花などの被害を生じ、10～20%の減収となることが報告されている。

5. 発生生態及び伝播方法

降雨による水滴の飛散により、発病部位から病原菌が感染拡大すると考えられる。雨が多いと発病が助長される。また、海外の文献では、ウスイロチャタテムシ科の一種(*Ectopsocus briggsi*: 国内で広く分布する普通種)を介して伝播することが報告されている。

6. 防除上の注意等

- 1) 本病及び媒介虫に対する登録農薬はないため、耕種的防除が基本となる。
- 2) 発病部は除去し、密閉したビニール袋内で腐らせる等の処置を行う。
- 3) 発病樹や感染が疑われる樹の管理作業は最後に行うとともに、使用した用具は70～80%のエタノールや200ppm(0.02%)以上の次亜塩素酸液などで消毒を行う。
- 4) 雨の多い時期や雨天時の管理作業は、感染を助長するため避ける。



第1図 葉に生じた円形病斑

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>